

2024年度を終えるにあたって

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

近年、自然災害の発生頻度が増加しており、台風・豪雨・豪雪による被害が深刻化しています。被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。

会長就任から5年、現執行体制で日本診療放射線技師会の運営に携わらせていただきました。この間、会員の皆さまの温かいご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

会長就任当初に掲げたスローガンである「対話と協調」の下、これまで活動してまいりました。放射線診療4団体連絡協議会の設立や関係官庁への診療放射線技師の登用によって、関係団体や関係官庁とのパイプはより太くなったものと認識しております。これらの関係性を生かし、これからも職能団体として行うべき事業に力を注いでまいりたいと存じます。

特に、2024年10月31日から11月3日まで開催された第1回日本放射線医療技術学術大会のALL JAPAN RADIOLOGYシンポジウムでは、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本放射線技術学会、日本ラジオロジー協会、日本画像医療システム工業会と日本診療放射線技師会が登壇し、今後の放射線医療の発展のために全ての団体が協力していくことを表明いただき、大変感銘を受けました。このような団結した力は、きっと診療放射線技師の発展にも力強い後押しになると信じております。

さて、2024年12月に開催された第5回理事会において、2025年4月から私が常勤役員として勤務することが承認されました。常勤役員として、これまで以上に本会の運営に力を注ぎ込み、会員の皆さまの声を聴き、現場のニーズを捉え、会員の皆さまのみならず国民に貢献できる事業展開に努めてまいります。引き続き、ご支援をよろしくお願い致します。

本会は、人口減少時代に対応した「JART Vision 2040」を策定し、会員の皆さまのスキル向上と事業の効率化を推進してまいりました。具体的には、会員の皆さまのスキル向上のための指標となるラダーの構築、e-ラーニングを中心とした無料教育コンテンツの充実などに取り組んでまいりました。

2025年度の事業については、6月の総会で提案させていただきますが、タスク・シフト/シェアの推進、性腺防護シールド廃止の周知、生涯教育制度の推進など、重点項目を着実に実行してまいりたいと存じます。特に、タスク・シフト/シェアでは、告示研修を基盤に、臨床現場における診療放射線技師の役割拡大と医師の負担軽減を目指します。

さらに2024年度診療報酬改定による処遇改善は、会員の皆さまの待遇改善に直結する重要な課題であり、これからも引き続き取り組んでまいります。

これらの重点項目を着実に実行することで、会員の皆さまの期待に応えられるよう、全力を尽くしてまいります。会員の皆さまにおかれましては、引き続き、本会の活動へのご理解とご協力をお願い致します。

